

SAMURAI CITY AIZU



豊作や家内安全を願う

会津彼岸獅子

長い冬に終わりを告げ、春の彼岸入りとともに、今年も獅子舞が街にやってきます。三体の獅子が笛と太鼓の音色に合わせ、古式ゆかしい舞をみせながら市内を練り歩きます。豊作と家内安全を祈り、春の訪れを喜び合う会津の伝統行事です。今年も鶴ヶ城などで公演します。

公演場所及び時間のご案内

令和7年3月20日(木)春分の日			
公演場所	時間	獅子団名	公演主催団体
鶴ヶ城本丸	10:30	天寧獅子保存会	会津まつり協会 TEL 23-4141
七日町通り 阿弥陀寺境内	12:00		
本町通り コープ本町駐車場内	13:00	小松獅子保存会	会津若松市商店街連合会 TEL 37-2789
市役所通り 栄町第二庁舎前	13:30		
神明通り 興徳寺境内(蒲生氏郷公墓所前)	14:20		
大町通り 会津信用金庫駅前支店駐車場内	15:10		

令和7年3月22日(土)			
公演場所	時間	獅子団名	公演主催団体
御薬園 北側駐車場	11:30	小松獅子保存会	会津まつり協会 TEL 23-4141
御薬園 御茶屋御殿前 (別途、入園料が必要です)	11:45		

※公演時間・場所は、天候等の事情により変更、又は中止になる場合がありますので、予めご了承ください。

※公演場所は、裏面地図中の★印のところです。
 ※悪天候の際、会場によっては次の通り、場所を変更して行います。
 鶴ヶ城本丸 武徳殿 阿弥陀寺境内 阿弥陀寺本堂
 栄町第二庁舎前 会津稽古堂正面入口付近
 興徳寺境内 神明通りアーケード

<https://www.aizukanko.com/kk/festival/>

主催: 会津まつり協会・会津若松市商店街連合会

お問い合わせ: 会津まつり協会 TEL0242-23-4141

会津彼岸獅子の由来

会津に獅子舞が伝来したのは、諸説あり定かではないが、寛永年間(1624年~1643年)に下野国(今の栃木県)から「三匹獅子」として伝わり、次第に会津盆地の各地に広まっていったとされています。春の彼岸の時期に舞われることから「彼岸獅子」と呼ぶようになったと言われていますが、由来の一つには、その昔、疫病が流行し多くの人々が命を失い、疫病を退散させるために主な寺社に獅子舞を奉納して祈願したところ次第に終息したと言われており、折しも春彼岸であったため、「彼岸獅子」と呼ぶようになったとも伝えられています。

戊辰戦争時のエピソードとして、日光口(南会津町田島)の守備に当たっていた家老・山川大蔵(後の陸軍少将 山川 浩)は、別の国境が破られ鶴ヶ城での籠城戦が決定されると、帰城の命令を受け会津城下に急ぎ戻ります。途中、飯寺まで来ると鶴ヶ城がすでに新政府軍に包囲されているとの知らせを受け、そこで山川は一計を案じ、小松村(今の会津若松市北会津町小松)の獅子に協力を要請しました。小松では、決死の獅子団を結成し、その獅子団を先頭に「通り囃子」を演奏しながら山川の隊は堂々で行進しました。新政府軍は敵味方も分からぬまま呆然として見送るのみで、籠城していた者は聞きなれた音色を聞き、門を開けて泣いて迎えたといわれています。戊辰戦争後の明治4年(1871)2月17日、御薬園に招かれた小松獅子団は、旧藩主父子から、先の入城作戦の折の勇気を称えてお褒めの言葉を賜り、さらに、小松獅子団に限って、太夫獅子の頬掛と高張提灯に会津葵紋の使用が許されました。また、天寧獅子舞は会津藩士達の共鳴を得て研磨、武道型が鑄込まれて独特のものとなり、例えば腰を下して安定を保ち、足は四もくを踏んで一度下した腰は舞終るまで伸ばすことを許されず、その姿勢美が尊重されている点など藩士らにより芸格を仕上げられた事を物語っています。

獅子団の構成

太夫獅子1体・雌獅子1体・雄獅子1体・弊舞小僧1人・御弓持1人・棒持1人・笛吹3人・小太鼓3人/計12人(獅子団によって、構成が若干異なります)

獅子舞の曲

庭入・山おろし・単場かくし・雌獅子かくし・太夫舞・弓舞・棒舞・大桐・岡崎・袖舞・弊舞・雌獅子舞・通り笛・三ツ笛・打込・とわり舞・のめり舞・のめり小杉・ばち舞など24曲。
 本公演は庭入・山おろしなど5曲ほどで20分~30分ぐらい。

